

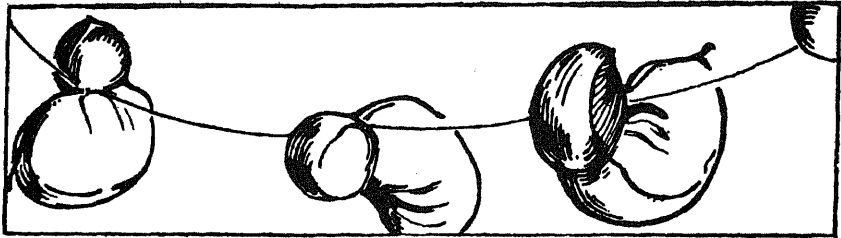
幼見之教育



號六第 號月六 卷四十四第

內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日



第 六 號 幼 兒 教 育 第 四 十 四 卷

— (次 目) —

<p>保母の職分の深さ……………倉橋惣三(三七)</p>	<p>愛兒の保育期を顧みて……………松本しづ(三三)</p>	<p>お話二つ……………志村貞子(二二)</p>	<p>繪本に望む……………安村ふさ(二〇)</p>	<p>日本幼兒飛行機獻納貯金第二期提唱……………(一九)</p>	<p>高等女學校の保育實習……………堀江時三(二六)</p>	<p>決戦下に於ける幼稚園に關する諸問題ニ當附屬幼稚園……………時下米太郎(二一)</p>	<p>敵(卷頭)……………倉橋惣三(一一)</p>
------------------------------	--------------------------------	--------------------------	---------------------------	----------------------------------	--------------------------------	---	---------------------------

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

敵

倉 橋 惣 三

たゞならぬけはいの中には喜んで、子らの二組が相對峙してゐる。一方が優勢とみえて、のしかるやうに、口々にわめきたてゝゐる。

「負けた方が米英じやあないか」

「いやだいいい」

さつきの戦つことに、おきれ氣味になつてうしろを見せたのであつたが、米英と罵られた一言に、きつとなつて振りかへつた小がらの子が、肩をいからして叫んだのである。

それにつゞいて、足なふみだして、敵がたを睨みかへしたのは、大がらの子である。

「なにッ」

この權幕に、折角く勝味に氣おつた方の子らも、聊かたち／＼とした。

「でも逃げたんじやないか」

その聲の調子には、どこか相手の氣もちを諒とするとこゝろありげなものを含んでゐる。

「砂なんか、ほうるからな」

大がらの子は、また半歩ほど踏み出した。

「砂は毒瓦斯だから、ほううちやいけないと先生が、おつしやつたよ」

小がらの子が口をどがらせていつた。そして、顔を眞赤にしてつゞけた。

「毒瓦斯なんか使ふ方が米英じやないか」

「なにッ。——どつちだつて米英なんか」

相手を假りにも米英と口走つたのが悪かつたと思つてゐるところへ、投げてならない砂を使

つたのが氣を替めて、我れ識らず出た言葉が、

「どつちだつて……」だつたのである。

「そうだ〜。どつちも米英じやないんだねえ」

「そうさあ」

「そうだねえ」

「いっしょに米英やつつけようよ」

「そうだ。いっしょに、山の方へどつかん。」

この光景を傍で眺めてゐた先生は、そつと、口もどに笑を浮べながら思つた。——子らの戦

つこは戦じやあない。——それにしても、よくまああんなに、ほんどうの敵を憎んでゐる。

ど。

決戦下に於ける幼稚園に關する

諸問題と當附屬幼稚園

東京第一師範學校附屬幼稚園主事

時 下 米 太 郎

一 現下の問題

幼稚園の經營について述べる前に現時に於いて幼稚園教育に關し特に問題とされてゐる事柄について一應の考察をして見よう。

(一)、その第一は「このやうな緊迫した時局に於て幼稚園の教育等は廢止してはさうか。」といはれてゐることに就いてである。

幼稚園の教育は元來が社會狀勢の進展に伴ひ家庭に於ての教育だけでは現時局下の教育から見た社會的要求が十分に充し得られない所から起つてゐるのである。所が今次の大戦争の如き國民の總力を擧げての決戦になると、平時でさへも家庭の兒女教育に多少の不足が認められてゐたのが、愈々不足が痛切に考へられるやうになる。衣食住にかからまる基本的生活でさへ母親は一日中それに追はれ通しの有様となり更には國家の要請に應へて家庭を留守にして生産戦へ参加するやうな事態にもなれば家庭の兒女教育に手

ぬかりの生ずることは言ふまでもないことである。

こゝに幼兒の教育は新しい教育問題として登場するに十分の資格が発生した。更に又現代の戦争が破壊の戦争であると共に建設の戦争であり、建設戦の基礎は人物の育成にある點より考へれば兒童幼兒こそその建設戦の基調をなすものだと確言することが出来る。殊に家庭が教育に専念出来ない情態になつてゐる現代に於て特に左様であり、幼稚園や託兒所こそ數多の子供の集團心理を適正有效に擲へて家庭教育では容易になし得ない集團的な生活やさうした緊團氣で薰化或は叩き込む教育が時代 要求に應じて強度に可能であるとも言へるのである。

要するに、幼稚園の教育、更に廣く言へば幼兒の教育は決戦下なればこそ一層重視されねばならないと信ずるのである。

(二)、幼稚園教育の問題「第二は義務教育年齢の引下げによつて「幼稚園の年齢まで義務教育にせよ。」と言はれて

ゐることである。この問題は教育の戦時非常措置案から誘導されたもので學校教育の始期を一ケ年下げようとするものである。けれどもこの問題は少しく子供の心理發達を考へる人にまつては、學校教育が現代のやうな教科課程を要求する限りすぐに無理だといふことがわかる問題であり、一時騒がれたけれども間もなく影を消したやうにさへ見えるのも自然の成行かも知れない。若し教科課程について根本的に検討を加へて、更に出なほしをすれば或は可能な問題であるかも知れない。但し左様な場合に於ても子供の心身發達の程度を考へ、最も適した材料を最も適當な方法で提供しない限りこの問題の解決は依然として取残されるのではあるまいか。

(三)、問題のその三は幼稚園保育の休止問題である。此の問題は或は東京だけの問題であるかも知れないが疎開地域共通の問題になることも豫想され得るのである。要するにこの問題は緊迫時局下に於ける幼児の身邊養護の問題と共に人口、物資の疎開に關係があるので幼稚園の保育そのものを否定するものでは決してないと思ふ。

以上現時に於て幼稚園にからむ最も重要な問題三つを擧げて見たのであるが、結局は何れも幼稚園の教育を積極的に否定するものではない。のみならず現戦時下の傾向として何れの國でも不良兒が激増したり、情操方面の生活が缺

乏したりして種々の新對策が考へられることを考へ合せれば幼稚園教育、廣くは幼児の教育は次代の國民の育成といふ點より見て一層の主要性が加へられつゝあると言ひ得るのである。

二 我が幼稚園經營

さて當幼稚園は明治三十三年創立以來四十五年の歴史を持つものである。そしてその保育は二年保育制をりり年少年長二組の編成である。

師範學校の附屬校園としては制度上では國民學校とは獨立の存在のものではあるが、その實際に於ては、

(1) 主事が國民學校の幼稚園を兼任してゐること
(2) 保母は訓導の資格ある本校出身者を採用し必要に應じて國民學校の訓導と交流してゐること

(3) 幼稚園で保育を満了した幼児は無條件的に當附屬國民學校の初等科一年級へ入學させてゐること

(4) 園舎は本校附屬國民學校と一つ地域一つ區劃内に存在し本校生徒附屬國民學校兒童と共に一つ校門より日々通園させてゐること

(5) 後援會保護者總會等凡て附屬國民學校と一體にてその經濟上の運営も國民學校と一體なること

(6) 四大節を始めその他の重要な儀式行事面に於て特に本校師範及び附屬國民學校と一體化するやうに努めてゐる

等のため幼稚園二ヶ年國民學校八ヶ年計十ヶ年の教育を一連繋の教育體系の下に運営してゐる。従つて國民學校の教授法研究會にも保母が出席して意見を開陳し幼稚園の保育法研究會にも國民學校の全訓導が出席して希望や要求を述べるなき協同研究が常に行はれてゐるこゝである。

この前後十ヶ年の教育を一體系の下に行はうとするなごは斯かる背景と永年の傳統との結果出来るこゝだとも言はれるが同一師範學校の附屬教育機關であれば然あるべきが當然のこゝも言つても差支なからうと思ふ。而もこのために幼児期より兒童期青年前期までの心理を汲んだそしてその時期々々に即した教育方法を研究することは新日本教育建設の一資料ともなるのではないかと思ふのである。

次に我が幼稚園は師範學校女子部生徒の保育實習機關である點に特色を持つてゐるこゝは言ふまでもない。現在の運営機構としては教育實習全體に重きを置いて十二週を之にあてると共にその教育實習規定を重點的に定めてある。その十二週の中で二週間を保育實習に充てゝある。當校のやうに附屬幼稚園を有する師範學校ではそこで實習させるのは勿論であるが附屬幼稚園を有しない場合でも代用附屬幼稚園を指定してそこで實習させるこゝになつてゐる。

所が本校の幼稚園教育史を緋けば創立の當初から教育實

習生には全實習十週の中の半分五週間の保育をさせて來たさいふ四十年を經過してゐた次第であるが新制度になり教育實習生全部が保育實習をするこゝになつてからは當幼稚園の如く二組の編成では不十分なので都下四ヶ所の幼稚園に協力を求めて代用幼稚園を設置して各々その傳統と環境とに即した保育を實習させて來たのである。それには最初に當幼稚園に於て保育全般について講話を行つた上でなほ代用附屬幼稚園で懇切な指導を受けるこゝにした。

實習期滿了後も毎日二名宛當番として當附屬幼稚園に實習させ都下の幼稚園實習と當附屬幼稚園の實習とを交流一體化させるやうに努めてゐるのである。

これによつて教生一同は教科課程を前提せずには子供の心身發達を根柢として教育を考へるやうになり幼児教育乃至國民學校初等科の下學年教育の根本問題をより多くより深く體得して卒業後は教育練成の實際に貢獻すべき素地が培はれてゆくものも考へられるのである。

次に當幼稚園は保育に關する研究調査機關としての使命をもつものである。世間に公私の幼稚園は多い。併しそれ等は其の殆んき全部が實際の保育をなすのを以つて目的としてゐる。所が本園は勿論預つた幼兒の保育をするのは當然であるが其の間に於て幼稚園の保育に關する研究調査をなし幼稚園教育の理念、幼稚園教育の方法等について不斷

の研究を怠らぬことを念願してゐるのである。この事は本園が教生實習に際してその指導性を發揮する爲にも必要であり他面師範學校の附屬幼稚園として保育の趣向を措定する上からも當然の要求だと思つてゐるのである。

この本園に於ける研究は現代の如き戦時下に於ては平時のそれよりも更に一層の拍車がかげられねばならぬと思つてゐる。

殊に幼稚園の存在理由が云謂せられ、託児所との切换が要求せられるやうな現代に於て特に然りであり目下幼稚園としては託児所と照し合せ相互の長所を如何に發揮せしむべきか、保育時間の問題、保育材の問題、取扱方法の問題等が研究の主題を構成してゐるのである。

三、我が幼稚園經營上の主要問題

我が幼稚園經營上の問題は観點を變へる毎に多種をあげ得るのであるが、その中心も云ふべきは次の諸點である。

(1) 必勝信念啓培の保育

これは實に現時局下、國民全般に課された要請ではあるが特に次代の國民の腦底深く植ゑ付けねばならぬ信念である。本園に於てはこの點に關して特に深甚の注意を拂ひ指導の各項目を通じて常に之が啓培には格別な工夫努力を廻らしてゐるのである。

イ、國體の尊嚴性

ロ、民族の優秀性

ハ、將兵の盡忠報國

ニ、生産陣の獻身的活躍

等はその最たるものであり、儀式並に談話・唱歌・手技・遊戲等ではこれ等に對する不斷の工夫を凝らしてゐるのである。

(2) 戦時訓育の徹底

戦時下の教育殊に今次大戦の如き國家の降替にかゝはる戦争下に於ては、國民必須の訓育を更に強化して左記のやうな點には殊の外注意を拂つて取扱ふことに努めてゐる。

イ、敬神崇祖の信念の昂揚………神佛拜禮の實踐勸奨

ロ、軍事援護の實踐………皇軍將兵並に遺家族に

對する感謝慰問文畫作製

ハ、物資愛護節約の實踐………保育資材・園具等の愛

護。

ニ、勤勞愛好の氣風刷致………遊び仕事の勤勞化、勤

勞の作業的體驗等

以上の如く緊迫時局下幼児の保育道を通して奉公の誠を捧げてゐる次第である。

高等女學校の保育實習

東京都立第五高等女學校長

堀 江 時 三

六

私の學校に今度戰時託兒所が開設せられることになり、既に四月六日には開所式を擧げたのでありますが、時局柄設備を充分は申さなくとも最小限度に於てさへミヨのへるこが困難で目下鋭意努力致してゐる次第であります。

一體戰時託兒所が私の學校の外都下若干の女學校に設けられるに至りましたのはもとも文部省の發意によるので都の教育局ではかねて適當な學校を調査せられてゐたのであります。戰時託兒所は國家的、社會的對策として既に都の民生局にて都内に多敷設置せられてあり、一層その數を増加しようを計畫せられてゐたことではあるし、そこで教育局と民生局とが協力してその増設を計らうといふことになり、その結果私の學校は地域的に適當と認められ民生局に屬し淀橋區の御盡方にて第五高女戰時託兒所が設けられるといふことになつたのであります。

私にもさう保育所の必要なことを痛感致して居ましたので、先づさしあたり短期ではあるが教育的留意に重點を置いたものを試みにやつて見ようを存心して、家政科擔當教員を中心に女教員の御世話をお願いすることゝして昨年夏

季臨時託兒所を校内に設けました。専攻科や本科の上級生を保姆見習として先生方の指導の下に幼兒達を取扱はせたのであります。それは豫期以上の好成績を擧げ、貴重な經驗を得たので御座います。自分の學校内で保育實習の機會は得たし、家庭からは子供の躰がよくつたこと感謝せられるし、それにもまして實習生徒達の喜びやうはすばらしいものでした。自分の弟妹にもあれほごまでに面倒を見てもやであらうかと思はれるほど、生徒は親切に丁寧に眞剣になつて子供の世話を焼くのです。子供は毎日託兒所に来るのが楽しみで本當の姉さん以上に懐くのでした。併し狎れてはなりません。こゝは教育の場所ですから正しい環境に正しく成長させることが大切です。子供達はよく言附を聽いて食事、お晝寝、遊戯、或は毎日のさよならの時の動作など皆キチンと行儀よく出来ました。保育室は室内體操場を利用しましたから廣々として採光換氣は申分ないし、遊戯場も砂場もあり、休養には講堂の二階の疊の間を利用致しましたので子供達には全く天國の様に楽しかつたのであります。子供は快活になり言葉遣も正されお友達とは仲善

となり、偏食も自然に直りました。實習生は實習生で全く子供達のためによりと思はれることは何でもして上げたいといふ崇高な氣持になつて、技術や工夫のもごかしさはありませんけれども、眞心だけは本當に一杯でした。子供は母親の生寫しですから、この點から生徒に教育的反省させたことは極めて深かつたに存じます。

臨時託兒所を閉鎖致しましてから後私共で反省會を催した席上、生徒達は異口同音に大變よい経験であつたに感謝しをりました。子供を取扱ふことが如何に女學生の天性に適するものであるか、女學校に保育所を附設することに教育上如何に大切であるがよいふことを一層痛感致しました。そこで出来るだけ早く常設的のものを設けたいと存じましたが、さてこれを學校内に設けることになる色々な支障が起ることに豫測されます。子供達のためには日當のよい明るい室を、勤勞者の子供なるが故に特にあてたいのですが、そんな室の餘裕はありませんし、適當の廣さの遊戯場も考慮せねばならぬし、その他給食や假睡等のことも顧慮せねばなりません。成るだけ生徒達の集合、出入りする場所を接近せぬ方が適當であらうと思ひますが、遺憾ながらさうでずに狭隘な校舎のこゝですから適當な所がありません。出来れば校外に適當の場所を求めたいものゝ數ヶ所を物色したのですが、さうも思ふに任せぬ所があつて實現を

見ないでみました。

私は保育所としての戰時託兒所といふものゝ性質を考へ出して参ります。さうも今日の幼稚園については再検討をする必要があると感じ出しました。一體今日最も切實に要求せられてゐるものは何か。一億國民戰鬪配置についての總進軍の秋です。何れの方面にも人を求めてゐます。戰力増強への總廠起です。男子が第一線に出た後の生産増強の責任は女子が果さねばなりません。進んで女子に大いに勤勞して戴かねばならぬ今日です。乳幼兒を抱へたお母さんにも出て貰はねばなりません。そのためには早朝から夕方まで母親が工場に働く間安心して子供を託して置く所が必要であります。成程幼稚園に子供を託して置けばそれだけ母親の手は省けて家政のこゝ隣組のこゝ其他便宜を得るこゝも多いでせうが、子供を託してゐる時間は通例半日位であり、その主たる目標は何にしても教育的留意を重視してゐるのですから、こゝに通ふ子供も所謂勤勞者階級のものではまづないのでありませう。そこで私は幼稚園は昔の精神に還れといふ考へなのです。即ち大正十五年幼稚園令公布と共に文部大臣の訓令中に「父母共ニ勞働ニ從事シ子女ニ對シテ家庭教育ヲ行フコト困難ナル者ノ多數居住セル地域ニアリテハ幼稚園ノ必要殊ニ適切ナルモノアリ今後幼稚園ハ此ノ如キ方面ニ普及發達セムコトヲ期セザルベカ

ラズ」ミの注意が促されてゐることを願ひるべきであり、ます。今直接に必要なのは勤勞者の乳幼児を預る所です。東京都内には現在の何倍かの託児所の増設が必要とせられてゐます。それには幼稚園を振向けることが急務であるといふのが私の持論であつたのです。然る處最近東京都から一時幼稚園の閉鎖といふことが指令されましたが、私は此の際かく閉鎖された幼稚園は事情の許す限り戦時託児所に更生さるべきであるを存じます。保姆も設備も皆揃つてゐるのですから、これほゞ好條件のものはありません。新しく託児所を創めるのは今日では事實上非常に困難です。現に私のミこのものも子供用の手洗所作るのにさへ工事が仲々はかぎらぬ有様です。この原稿を認めてゐる只今の所では一體いつ完成するのか見當もつきかねてゐる始末であります。

託児所は一定時間たゞ子供を預るミいふだけのものではありません。破れた服、汚れたパンツ、或は鼻汁を垂らした子供も多いミでせう。併し子供は國のお寶です。大君にお盡し申上げるために此世に生をうけたものです。この尊い國のお寶を預る以上は、預つた責任を十分に果さねばなりません。母親が子供を捨身で愛育するやうに絶大の慈しみを以て保育せねばなりません。保姆は、供ミ全く一體ミなり、子供達の絶對の信頼を受けるミが何よりの樂みであるといふミでありたいと思ひます。

女學校では上級生に保育實習を課することになつてゐます。子供も天使なら保姆も天使だといふ氣持で心よく子供の世話の出来るやう生徒を躑けたいと思ひます。子供の不用意に洩したオシッコも拭つてやる、鼻汁もこつてやる、汚いミも、うるさいミも氣にかけないで子供の稟性を磨くのだ、お國の寶をはごくむのだといふ心懸で子供に當らせたいと思ひます。さうするミが實はみんなに生徒の心を磨くミになるか、將來の母たるための修養になるか計り知り難いと思ひます。しかも保育實習は一朝事ある時に大層役立つミを忘れてはなりません。今や空襲は必至です。爆彈や焼夷彈の雨の中に乳幼児は女學生の手で護り抜きたいミ存じます。關東大震災の時の様な慘事は二度ミ繰返したくないものです。手足まミひの子供を安全に組織的に護つてあげて、大人や元氣な人には充分に活動して戴きませう。そうした場合の女學生の活躍が期待せられるのは當然であるミ存じます。

日常は子供を明朗に元氣快活に保育し、親に安心して勤務に挺身して戦力を増強せしめ、一朝事あらば子供を保護して防空防火等の活動機能に支障なからしめ、自分も色々ミ修養が出来て、女性の本質、母性の根基に培ふミの出来るのは、託児所のお蔭です。今日の時局下女子教育に於いて最も相應しき施設の一つであるミ存じてゐる次第であります。

日本幼兒飛行機獻納貯金第二期提唱

規定

日本幼兒飛行機獻納貯金の提唱に對する全國各地の幼稚園の御共鳴と御賛同に就ては、本會の誠に感激にたへぬところであります。第一期締切を二月末日といたしたのですが續々御寄託下さつた貴い獻納金額は本誌四月號御報告の巨額に達しました。本會として感謝の至りであります。

實を申せば、最初の提唱としては、御獻納總高の豫想が立ちませんでした。御賛同は確信してゐましたが、實額に於て必ずしも多きを豫期してはならぬとも考へたりしてゐました。従つて果して一臺の飛行機が獻納出来るか、それが出来なくとも、せめて一翼となり、機體の一部にでも豫告に書きましたやうに、一部の費用として獻金し得るに止まるか、それは結果を待たねばならぬと思つてゐました。勿論初めから第二期、第三期と繼續の豫定ではありましたが。

然るに此の實額が、すなはち第一期だけで、軍用飛行機一臺獻納額金八萬圓の半ばを超えた盛果に對しては、之れに第二期御寄託を併せて是非「幼兒號」を獻納いたすことにしなくてはならぬと所期するに到りました。殊に、御送金と共に寄せられた各幼稚園皆様の御熱意のほどが、いづれも「日本幼兒號」の御切望にあるを知りましては、第一期だけを切つて部分的に獻金いたすのは遺憾であるといふことが感ぜられました。すなはち、更に第二期の御寄託により、總額金八萬圓に達するを待て「日本幼兒號」の獻納手つゞきを執りたいと思ひます。刻々苛烈を加ふる競争の深刻性に對し、お互に一日も早く計畫を實現したく、寸時の遅延をも許されないのであります。どうぞ第一期に於ける御熱心をそのまゝに、更に一層の御盡力を以て、必ずしも第二期締切を待たず、幼兒達の純一なる愛國の心を具體化させたいものであります。第一期に對する感謝と共に、第二期に對する切なる願ひを披瀝する次第であります。第二期に對する切なる願ひを切に御賛同を重ねて願ひます。

- 一、各園で幼兒の飛行機貯金を計畫的に實行して下さい。
- 一、保護者、職員の方々の御参加も希望します。

一、各園名(所在地、代表者名)を明記し、本會へ(東京都小石川區大塚町三十五、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)日本幼稚園協會宛)お送り下さい。行き違ひの起らぬ爲に必ず振替貯金にお願いします。臺灣は必ず電報爲替にて御送金下さい。振替口座東京一七二六六。「飛行機獻金」と必ず附記して下さい。

- 一、第二期締切は昭和十九年六月末日とします。
- 一、全體をまとめて直ちに軍に獻納します。
- 一、獻納には御寄託各園名を列記します。
- 一、別に受領證を差上げず、獻納完了と共に、本誌(昭和十九年九月號)に發表します。
- 一、一切の費用は本會の負擔とし、御寄託の金額全部を獻納します。

昭和十九年六月

日本幼稚園協會

(責任者 倉橋惣三)

繪本に望む

附屬幼稚園 安村 ふさ

此方では「讀んで」と寄つて來、彼方では一心に拾ひ讀みする。梅雨時分の幼稚園にはかうした光景が屢々見られる。先刻までは天にも響けと喚聲をあげて兵隊ごっこをしてゐたことも達が、此は又鮮かな轉身ぶりである。そして保育室の一隅はしんみりとなり、すりよせた頭の廻りには、ほのぼのとした温かさがとりまく。あの元氣なこども達を此程までに惹きつけ、靜かにさせる繪本、それは此の戦時下にどの様な姿を呈してゐるか、此から少し考へたい。

戦争前まではよみものはこどもの世界に歩調を合せてゐた。併し今ではこども達によみものに歩調を合せる様にしむけられてゐる。即ち戦時下のこどもとして認識すべしと觀じた方面へ強力に引き寄せられてゐるのである。

此の頃出版されるよみもの——幼稚園期に於ては主として繪本——は勿論、戦争意

識の昂揚に資せんとしてゐるのが大部分である。其の中で更に分けてみれば、大ざつばにいつて、一、時局認識に資すべき愛國的、科學的のもの、二、自然科學等の觀察的のもの、三、良き躰に資すべき教育的意圖の明瞭なもの、四、物語風の情操的なもの、と分けられると思ふ。そして勿論時局認識に資すべきものが直接戦争意識の昂揚に役立つ爲に最も多い現状である。

扱こども達はどういふものを好むかといふと、私が自分の受持つ二年保育の年長兒二十數名について調べた所では、一、四に屬するものが略々半ばし、他はほんの二、三人といふ結果が出た。そして一は殆ど男兒、四は殆ど女兒と一部の男兒といふ次第であつた。

又父兄は今の繪本をどうみてゐるか、將來どうありたいと望むかを調べてみると、先づ本が仲々手に入らないと誰もがいふ。

その結果見つけ次第に讀解出來さうなものは大抵買ひ與へる、といふ態度と、全然手に入らぬものとして兄姉の讀み古した戦争以前のものを與へ新しくは殆ど買ひ與へないとの二つに分れる。扱求め得たものをよく検討すると、時局的のものが殆どで詩的なものは少い、紙質の悪いのは止むを得ないがこどもの目を喜ばす色彩のよいものが少いといふ。で將來は、各社共よく聯絡をとつて一貫した方針の下に發行して欲しい、種類は少くとも冊数を多く出版し、購入し易くして欲しい。時局的なものも、觀察的のものも、幼兒の共感を起し興味を覺えさせる様、もつと工夫して欲しい、といふ希望であつた。

以上の他に私一個人の考へを蛇足的に書くと、先づ繪本は幼兒にとつて最も重要な環境の一つである事を誰もがしつかり肚に入れて置き、その及ぼす影響の大なる事に深く思ひを致すべきだと思ふ。そして繪本は又文のある所が生命であるから、單に説明丈に終つてゐる様な無味乾燥のものでなく、繪文一體のものたる事が望ましい。基底には教育的のものを藏してゐても、露骨

に表現する事なく、和やかな愛情を充滿させてゐる事が必要であらう。そしてあくまでもやさしく、親しみ深く、幼児の共感を引くものであつて欲しい。はつきりした線色彩、出来る丈の保存に耐へるよい紙質、容易に買へる丈の量、戦時下には叶はぬ望みかも知れないが、戦時下なればこそ尙望みたい。戦局が苛烈になるに従つて休園する所が多くなると思ふが、そんな時、お話

お 話 二 つ

附屬幼稚園 志村貞子

子供たちはお話が大好きです。お家ではお母さんに、またお父さんに、そして身近にゐる誰彼に、幼稚園に來ては先生に、「何かお話ししてよ」とねだるに違ひありません。そしてこの子供達は次から次へとお話を求めて飽くことなしに心の持主なのです。知つてゐるお話はみんな話してしまひました。いろ／＼本を讀んで話してもやりました。もう種切れ、それでも子供は後から後から求めてやみません。「お母さん

に飢ゑたことも違は多忙な母親の手を省く爲にも、繪本に向ふ事になるだらう。さうした場合幼児の氣持を失望させない丈の、否もつと積極的幼児の生活を建設的に導く様な健康なものが欲しい。清純な情操を養ふもの、純真な愛國心を昂揚させるもの、科學精神の芽生へを培ふもの、何れにも和やかな愛情を充滿させ幼児をとりよく環境に明るい希望を持たせたいと思ふ。

の知つてゐるお話はみんなしてあげたのよ、もうおしまひ」そんなにお話、お話つてうるさい子ねえ。こんなことがいへるでせうか。あの眼を輝かして、耳を澄ましてきゝ入る子供たちに。またそんなことをいはれたら子供たちはどんなにかつかりする事だせう。すく／＼とお話で育つた心がしなびてしまはないとも限りません。私共は何とか子供達の心の食物になるお話の種を探さなければなりません。お話の種といふ

と私共はすぐ何か手取早くお話を書いた本はないかと探します。しかし此の頃は本もなか／＼手に入りませんし、殊に幼児向のお話の本は極く少いやうです。そこで止むを得ずお話の自給自足、外に向つてあれこれと探し求めてゐたお話をお母様自身、先生自身が作つてみようといふことにならなければなりません。さてさう思ひきめて廻りを見廻してみると何とお話の世界にとりまかれてゐる事に氣がつかました。子供達にとつて親しいものは何でも私共が眼を向けさへすればよるこんでお話の材料を提供してくれてゐます。そしてこんなにも子供たちが喜んでくれるものと此方までが嬉しくなるのです。次に一つの例をあげてみます。家庭菜園のカボチャ、この頃の人氣者で子供達にも親しいものです。植木鉢に蒔いた種子から可愛い、双葉が生まれました。そこで移植をしながらお母さんはこんなお話を坊やにしました。

カボチャのお引越

坊や、カボチャがずるぶん大きくなつたね、植木鉢のお家じや狭くて窮屈さうねお引越をしませう。お日様のよくあたる坊

やの砂場のそばがいゝわね。カボチャさん
 ぞんぞん手を伸ばしたら砂場のお屋根にしま
 せうよ。カボチャはね、柔い眞黒な土が好
 きなんですつて、こゝの土は赤いからシヤ
 ベルで掘り出して黒い土をお引越させませ
 う。カボチャのお引越の前に土のお引越だ
 わね。この土に腐つた木のハツバが入つて
 ゐるでせう。坊や見付けた？ ハツバはね
 黒い土のお友達なのよ、だからやつぱりカ
 ボチャと仲よしなのよ。この水はね、こや
 し、くさい？、さう、こやしもね黒い土が
 吸ふとカボチャの大好きな御馳走になるの
 よ。ホラ、土の中へ——ここにちは、つて
 すつかり入つてしまつたわ。坊や土運び重
 い？ さう重くないの、坊やは力持ちね、
 ホラ、いゝお家が出来たわ、カボチャの大
 好きな黒い土のお家よ。お家が出来るとね
 がボチャが、——もういゝの、もうお引越
 していゝの？ つてきくのよ。さうすると
 黒い土のお家がね、——もういゝのよ、早
 くいらつしやい。つていふのよ。——ぢや
 今お引越しますよ、植木鉢の土さんも一し
 よに連れて行きますよいゝでしよ。——
 あゝいゝですともいらつしやい。こんなお

話するのよ。ぢや坊や新しいお家にカボチ
 ヤの入る御門を掘つて頂戴、さあ、カボチ
 ヤさん、新しいお家が出来ましたよ。植木
 鉢のお家とさよならね。マア——カボチャ
 さん窺風だつたでせう。ホラ坊や、カボチ
 ヤの白い細い根がこんなに伸びてゐるでし
 よ。これでチュウ——つて土の中から御馳
 走を吸つて大きくなるのよ。坊やがお母さ
 んのおつぱいを飲むみたいだね。さあ廣い
 お家へお引越しましたよ。黒い土が喜んで
 カボチャさんよく来たね、よく来たねつて
 白い根をしつかり抱いてくれるのよ。さう
 すると白い根も喜んで新しいお家の中へど
 ん——入つて伸びていくのよ。御馳走いた
 だいてぞん——大きくなるとね、地面の上
 のカボチャさんも負けずにお空の方へ手を
 伸ばしてくるのよ。さうしたらしつかりつ
 かまつて伸びるやうに棒を立てゝやりませ
 うね。

か。お子さんの程度によつてお話の程度
 (内容)がちがつてくる事はいふまでもあり
 ませんが。

以前、子供達と草摘みをしながらこんな
 話が出ました。——この草何ていふの？—
 ねこぢやらしつていふのよ。猫の前に出し
 てやると手をこんな風に一寸まげてね、引
 掻くやうにして取らうとするのよ。先生の
 家にね、小僧つていふ猫がゐるね、ぢやら
 すととてもおもしろいのよ。こんな會話か
 ら「これ小僧におあげて——」と方々から猫ぢ
 やらしの贈物をもらつたことでした。それ
 からも子供達から時々「先生のお家の小僧
 元氣である？」などと可愛いゝおたづねを
 受け、私も可愛がつてゐた猫なのでその様
 子をいろ／＼話しますと、これが大變に喜
 ばれまして、私もそんなに何でもない生地
 のまゝの話が子供達に喜ばれる事を新しい
 氣持で味つたことでした。次の話はその一
 つを讀む話として書いてみたものです。

小僧の木登り

子猫の小僧はみかん箱のお家から外へ出
 ます。お母さん猫はお留守です。ひとり
 で箱のお家にゐるのはつまりませんし、外

はとてよいお天氣なのです。それに小僧は此の頭木登りが出来るやうになつたので嬉しくてたまらないのです。小僧はトットとかげ足でお庭に出るとお友達のお松の木をガリガリと引掻きはじめました。小僧は柔い爪がだん／＼固くなるやうで嬉しくてたまりません。ガリガリガリと研いでおいて一いきにかけて登りました。小さい松の木が揺れて細い葉がパラ／＼と落ちました。「高いぞ、あゝいゝ氣持」小僧は松の上からお庭を見てゐました。「おやあの木は高いなあ、お家の屋根より高いぞ」小僧は高い木をみつけると登りたくてたまらなくなりました。そこで松の木をそろ／＼降りはじめました。降りるのは登るのより少し怖いのです。ガリ／＼と松の木にしつかりつかまつて途中でくるとポーンと飛び降りしました。トットとまたかけ足で高い木のそばへ来ました。グーツと勢よく伸びた若い竹でした。今度はなが／＼うまく登れませんでした。つてつる／＼してゐますから。ガリガリガリやつと上まで登れました。「パンサーイ、高いなあ」するとさあ大變、竹は「重いよ、重いよ」といつてグーツと頭をさげはじめ

たのです。「ニヤ、お母さん」小僧はしつかりつかまつたまゝ泣き聲をたてました。「ニヤ、ニヤ、おちてしまふよー」そこへお母さん猫がとんできました。「まあまあ、小僧たらそんなところへ登つてしまつたの。お屋根の上へとび降りてごらんなさい。」ニヤ、ニヤ、こわいよー「お屋根がすぐ下にあるのよ、よくみてとんでごらんなさい」お母さんにいはれてみると、小僧のつかまつた竹は重い／＼とお屋根のすぐ上へ頭を下げてゐました。「さあよく見ておりのよ、一、二、三」お母さんの聲で小僧は思ひきつてポーンとお屋根にとび降りました。竹も子猫さんよかつたわね」とはねかへつてまたもとの通り

と立ちました。「ニヤ、ニヤ、お母さんも来て頂戴よー」小僧はお屋根の縁から顔を出して甘え聲でいひました。「今、いきますよ」お母さんが竹にかかると、竹はまた「重いよ、重いよ」といつて前よりもつと頭をさげました。お母さんはポーンと上手に小僧のそばへおりました。竹はまたビラ／＼とはねかへりました。「お母さん、この水白い木ね」小僧はまだ少し胸がどきどきしてゐましたけれど、強さうにいひました。「これはね竹つていふのよ、お母さんは教へてくださいました。それから高いお屋根からだん／＼に低いお屋根へおりてお家へかへる道も教へていただきます。

愛兒の保育期を顧みて

松本しづ

「赤ちやんで病氣もさせずにあんよが出來た、よく色々の物がいたとける様になつた。」

で許りある時期も過ぎて、吾が子もそろそろ團體生活をさせねばならない時が來ました。

お友達とよく遊べる様になつた」と喜んで

幼稚園に入れなければならぬが、然し

今迄毎日家で手を廻るにまかせて育つて來

た此の子が家から離れてたとへ一日の中の何時間かでも小さい乍ら社會人としての生活が出来てであらうかと色々迷ひは致しましたものゝ決心致しました。さて何處の幼稚園を選んだものでせう、何と申しまして倉橋先生の居られる幼稚園に越した事はないのですが、さう思ひ通りに行く筈もなし、兎に角試験を受ける事に致しました。

幸運にも許可を手にしました日。その喜ひは家中に一生に一度の春の思ひをいたさせ涙が出る程で御座いました。

第一學年 四月八日がどんなに待ち遠しく思へた事でせう。あれもこれもと準備に幾日も費していよゝ登園第一歩を踏み出した第一日、そつと幼稚園にお預けいたして迎ひに行きました所

「今日はお一人だけ 小使さんのお部屋で他のお友達の間を見てゐらつしやいました」と伺つた時の驚き。之からの不安。「皆さんに追ひついて行けるかしら」「やつぱり無理だつたのではないのかしら」「明日からどういふ風にしたらよいのかしら」と思ひは千々に碎けて、その夜一夜は一睡もせず

明かした事でお座いました。

出遅る第二日。心を鬼にして先生にお願ひして來ましたが、どうやら無事に過して來ましたやうでした。餘り大事を取り過ぎて育つて、參つた親の罪に、ひし／＼と迫る後悔も致されました。たゞ念ずることは毎日を休ませたくない一心で、言ひきかせもいたしなだめたりもして登園させました。

二三日と立つうちに勇んで家を出る様になりましたので、ホッと致しました。その時はたゞもう子供が喜んで出かけて行く姿と心根が何よりで外に何の望みも御座いませんでした。

一ヶ月餘り立ちます中にもう幼稚園が子供の生活になつてしまひました。保護者會で色々のお話を伺ひ、園内の様子を拜見致しまして健康な環境と設備が行届いて居ります事が人一倍羸弱と思はれる子供にとつて嬉しかつた事で御座いませう。先生のお骨折で日一日と楽しい共同生活に親しんですつかり元氣な子供になつて參る吾が子の姿に、どれ程の感謝を込めて先生方のお骨折を陰乍ら身に泌みて有難く思つた事で御座いませう。そろ／＼いたづらがはげしく

なり叱らなければならなくなつて來ました。五月の晴れた日。久米川への遠足。歩けるかしらとも思ひ煩ひ、先生のお迷惑は如何かと心碎きましたのに、案外の元氣さで歸宅いたしましたので驚かされました。心身がこれ程迄に此の子を強靱に育くみ培つて頂けたのかしら、と唯々一日一日の先生方の御努力に感謝致す許りで御座いました。六月も半ばを過ぎる頃から曇りの爲か幾分疲勞するかの様に思はれましたので、歸宅直後には晝寝をいたさせましたせいか缺席いたす事もなく保ち續けて參り、登園を喜び毎日さげたハンカチもエプロンも眞黒にして參ります。夜はタワシでこすらなければきれいならない足。「お丈夫になつてよく運動するよい子になりましたね」とほめる日が續いてまゐりました。もう風邪をひいては大變などと言ふ心配も薄らぎやつと一人前のお交りが出來ます様になりました事はどれ程の嬉しさでありました事か。それにつけても思はれてならなかつた事は家でかゝると同様に先生にもどれ程の御迷惑をおかけして居ります事やら、いく度かして頂いたお話を伺つてどんなに感謝

いたして居りました事か。

こんな元氣になり、登園いたす事をもう何よりの楽しみとして居ります見妹のないうこの子にとりましては休みの日程淋しい事はない様子で御座いました。それなのに暑中休暇といふ長い休みがまゐりました。さてどうして過させてやりまするか又なやみの種となりました。七月中は出来るだけ登園中と變りのない生活をいたさせやうと努めて参りましたが、顔色もすぐれず瘦せてさへ参る様に思はれました。思ひ切つて下田の海邊に連れて参りました。三日目頃から又健康をとり戻して参りました。十日餘を過して歸京しその後も機會を作つては外出致させる事に努めました爲か體重も増して第二學期の備へが出来た様に思はれました。日々無事に過し十月に入りました。子供の楽しみにして居りました運動會と遠足が續けてありました。歸宅後は徒競走の練習です。當日までどんなに練習した事であろうか、その運動會の當日何となく元氣がなく、終ると同時に發熱して續いて行はれる此の子にとりましては待望の遠足。芋掘りの遠足も一日違ひで止むなく斷念致

させなくてはならぬ事になりました。が後に償ひのつもりで田舎へ一日連れて参り畑の芋を取らせて来て慰めた事も御座いました。發熱は致しましても先生のおかげで毎日鍊成されました體は今迄の様に長びく事なく二三日で切り上げられました事に驚かされもし唯々感謝致されるばかりで御座いました。其の後の或日參觀させて頂きました。他の方に比べて見劣りはして居ります。が今迄の吾が子と比較して種々の動作や作品を見ました時はよくあそこまで参れたものだと言の通り有難涙がにじんで参るのを抑へきれずに居りました事も御座いました。半年前までは、一人で用を足す事も、食事する事も出来なかつたあの子が、今お友達とあんなになまいきな口をきいて話合つたり、遊び乍ら一日と智恵づけられ辨へられて來ました事は親がどれ程の努力で躰げ様と致しても出来る事ではない、こうした環境と生活によつて教へられ導かれたこそはじめて出来る結果であり感謝の外に言葉もないと思ひ乍ら參觀させて頂いて参りました。十一月、そろ／＼身にこたえる寒さがやつて参りました。毎年厚着と風

邪の爲にはなやませられる此の子、どうかして今年は無事に過ぎさせたいと豫防の爲毎晩うがひもいたし、吸入も十一、十二の二ヶ月は續けて致しました。お蔭で厚着は免れませんでした。が風邪の爲にお休みする事もなく、雨の日も雪の日も喜んで登園致しました。三月に入つて寒さもだん／＼緩びて益々元氣に第一學年を修了致す事が出来ました。

第二學年 國民學校のいはゞ準備學年に進んだわけで御座います。之からは唯遊ばせてのみ居てはいけません。遊びの後の整理整頓位はちやんとさせて、數も數へられる様に、片假名位は讀める様にと心構へて試みる事に致しました。先づ第一に健康、四月の半頃から朝早く十五分位の駈足と通園も二十五分位の所を徒歩にしました。四月終り頃には平氣になり益々丈夫になつて來ました様です。幼稚園でも相當悪い事もし、お叱りを受ける目もありました様に伺ひました。歸宅いたしますと殆んど外でどろどろになつて参ります。

そろ／＼體の方はよいと考へ、數へ方な教へて見ました。夜床に入つてからも百ま

で喜んで敷へながら寝みます。いつの間にか覺えた様です。繪は下手な様ですから何とかして畫かせて見たいと思ひましたが好みませんので、御迷惑でも先生におまかせしたきりで御座いました。字はいつの間にか自然に讀める様になつて参りました。六月の半頃に、「落付かなくなり出しました」との御注意から朝の跣足を中止して、毎朝テヂオ體操をさせて見ました。その後だんだんよくなつて來た様です。暑さの爲の過勞だつた様にも思はれます。又そろ／＼晝寢もさせて見ましたが、此の子の健康状態からは眞によい結果の様に思はれました。

此の頃から戦況を聞きたがりました。食前の御挨拶「ヘイタイサンアリガタウゴザイマス。イタゞキマス」の感謝の言葉も判つてまゐりました様子です。先生のお話を伺つたり、少國民新聞の讀める處を見覺えたりするので御座いませうか、兵器、國名等も話の中に出てまゐるやうになりました事は、時代の子供だと感にたへたことでも御座いますが、同時に又一步進んだ幼稚園のお躰をも想像致した次第で御座います。第一學期も修了。

第二學期。いよ／＼初等科入學準備期に入つてしまひました。家庭では何を準備したらよいかと考へました末、狭い庭に、竹登り、低鐵棒、平均臺の粗末な三機具を揃へて遊びながら練習させる様にしむけましたが、然しその使用は御近所の大きいお子様のお役に立つのが大半であつた様な結果となりました。目の前にその様な状態を知りながら、どうかしてよい國民學校に入學出來ればと願へてなりませんでした。出來ます事なら同じ場所が望ましく思へましたが、何しろ今年は十六名の極めて限られた少數。なやまされましたので、せいお仲間に入れて頂けるかしら、又入學してから人並に出來ますかしらと文理大のテストを受けました結果、秀の部にやつとながらも入るといふお話で御座いましたもので、大それた事では御座いましたが受持の先生に萬事お願ひ致しおまかせ致しました。毎日のお遊びの中に種々御準備下されました先生のお蔭で、あの子と致しましては分に過ぎたと思はれます附屬國民學校初等科入學の喜びも得させて頂けました事、これは唯一重に先生の御導きによる事と感謝で胸が一

杯で御座います。長い毎日を家庭では及びもつかない御努力とお躰をもつて、赤ちやんから子供へと此の様な素朴さと素直さで、自然にお申し下さつた先生方への心からの御禮の御言葉に代へて拙い乍らも眞實な思ひ出を綴り合はせて御挨拶に代へさせて頂きます。

◎係よりのお願ひ

「日本幼兒號」飛行機の獻納金や會費其他の費用を電報爲替で送つて下さる方がございますが、この場合は電報とは別に、送り人の住所姓名をお知らせ下さい。御送り下さつた方は、電文の末尾に名を附記したから、それに永い間の協會の會員だから分るだらうと思召してございませうがこちらは何しろ大勢のことでもあり、送り人の姓名住所を調べるのに、も寄りの郵便局では分らず本局まで出掛けて調べ、それでも分らない事が多いのでございます。右様の次第、どうかお忘れなく御送金と同時に必ず住所姓名をお知らせ下さいませ。

昭和十九年六月

日本幼稚園協會事務

保母の職分の深さ

倉橋惣三

近時、保母の責任の重大に擴大に就ては、前號に述べた通りである。これは、決戦下の必然であり、必須であり、保母諸君の自覺を要請せられることが大きい。

しかも、同時に、保母の職分の深さも亦忘れてはならない。責任の重大に緊張し、責任の擴大に活躍することの大なれば大なる程、自ら常に強く守つてゐなければならぬことは、眞の保育者としての職分の深さである。緊張し活躍しに自ら飽和して、その職分の深さをまぎらされる危険もないといへない。すなはち、この點切に注意し警戒を要する。

幼児の生活の世話は、保母の一つの重要任務である。多忙なる母に代つて幼児寢食の保護の周到を期するは、保育の急務である。これを怠つて今日の保育者は、その職分を完ふするといへない。しかし、苟も幼児教育者たる保母の職分は、それで終れりといへないのである。もつと深い職分が、それらの方面と共に常に要求せられてゐる。保育は教育だからである。従つて又、保母、すなはち幼児教育者の

職分には、教育としての深さが常に嚴存してゐるのである。

多忙なる母は、わが子のために盡し足らざるを悲しむ。故にこそ、何びきかによつて、それが補はれることを求めもする。しかも、その悲しむところも、その求めるところも、たゞわが子の生活の管理と保護に就てのみである。誰れが言ひ得やう。母が親としてわが子のために眞に求むるところは、もつと深いのである。すなはち、わが子のために眞の幼児教育を與へ難いのを悲しみ、又それをこそ求めるのである。或は、母達の中には、その深さを自識してゐないものもあるかも知れない。しかし、自識の有無に拘らず、親の心そのものは、必ずや教育的に深いものである。況してや、國家としての親心は、最も明確なる意識を以て教育の深さを具へなければならぬ。その、幼児に對する、國家の教育の心の深さを職分とするものが保母である。

幼児教育の深さは、先づ、心身一體の確固たる信念の下に、幼児の心を育てることである。幼児の心を眞に育てる

ためには、幼児の心の深い根に觸れることなしには出来ない。但これは、幼児の身の養護の大切さを聊かも輕くするものではない。身を育てることによつてこそ心を育て得ることを知ると共に、身を育てるに止まつてゐないことを知るのである。

幼児教育の深さは、次に、幼児の個を凝視し、個に觸れることによつてのみ、教育の誤りなき効果を擧げ得ることである。これは生活の集團性を輕視するのでもなく、教育の集團的方法を知らないことでもない。教育方法の基礎として、個の素質、個の環境、個の習癖等に徹することの細密、精確を期するのである。

幼児教育意思の深さは、更に、教育意志の深さでなければならぬ。教育の國家性、教育の人格性、教育の文化性、いづれもその深さ測り難いのであり、自ら己に深めて限らないのである。勿論その到達は容易く望み得ない。しかしせめてもその深さを深思することなしには教育者たり得ない。而して、教育者たることなしには一日も保母たり得ない。

決戦下、急務は急務に急ぎ、切迫は切迫に迫つて、悠々たる理念と理想への沈潜を許されないのは素よりである。而して、如何んの感謝を以て幼児のみに走り趁き、又、

如何んの切實を以て幼児等を擁し抱くかは、すべての保母のもつ現實であり、現實を離れて保母の活動の存在はない。しかも、保母といふ人、その人の職分は常に、現實と共に教育の本義を離れることは出来ない。その幾分を實現し得るかは、時の事情の條件に従はざるを得ないにしても職分の自覺からは寸刻も離れることは出来ない。それは保母の職分が現實の直視から離れることの出来得ないのと同じであつて、一層深いものである。事は保育に關係するゆえに保母なのではない。保母がその職分の深さの自覺を以て従事することが保母なのである。このことは、保母自らよく知ることであり、自ら任ずるところでもある。保母諸君は、その責任の重大を擴大の中に、その職分の深さも、今日ほご痛感することは無いであらう。

○お願ひ

○本會へ振替にて御送金の場合、振替料金拾錢を別に御加算下さるやう度々申し上げましたが、未だ御加算のない方が多くございます。この場合料金は、御送金下さつた會費の中より申し受けて居ります。

○従來特別行爲税はいたゞいて居りませんでした。この四月から特別行爲税相當額を申し受けることに致しました。

○又送料が、この四月より武錢になりましたから之も申し受けることに致しました。以上御承下さい。

昭和十九年六月 日本幼稚園協會事務係り